

ミニ かもめ

小樽支部長 萩原 正子

平成28年度小樽支部では、5月14日(土)にウイングベイ小樽で「看護の日、看護週間」を開催。今年度より開始時間を午後からとして、多くの市民の皆様に参加していただけるようにしました。健康相談、血圧・体脂肪測定、妊婦体験、ミニ看護師さん体験等の企画をしますが、中でも看護服を着て記念写真が行える「ミニ看護師さん記念撮影」では、たくさんの親子連れに参加していただき、にぎわっていました。これらの記事は広報小樽6月号にも掲載されておりました。5月には、小樽市内の各施設で、高校生を対象に「ふれあい看護体験」を行いました。看護師や介護福祉士など医療系を目指す高校生が各施設で血圧測定や食事の介助、手術室の見学などを行い、看護師の仕事に触れてもらうことができました。貴重な体験をした参加者の感想文を掲載させていただきます。

「ふれあい看護体験」 小樽商業高校 加藤 樹菜

私は、今回のふれあい看護体験を通して、思っていたよりも看護師は大変な職業という事がわかりました。私が思っていた看護師は手術の手伝い、採血、点滴などの医療に関係する事ばかりだと思っていました。ですが、実際はそれだけではなく患者さんの身の回りのお世話、リハビリの為の散歩、入浴、足浴などの仕事があると知り少し驚きました。そして、私達が実際に患者さんの足を洗っていた時に看護師さんが「私は足を洗ってあげたり、お風呂に入れてあげる時間が1番好きなんだ。注射の時は患者さんに嫌がられるけど足浴とかの時は、ありがどうって喜んでくれるからね。」と言っていました。他にも、患者さん1人1人不安や寂しさを感じないよう声のトーンや大きさを変えて話すこと、患者さんがどんな話をしたら喜んでくれるのかを考えて話す事など患者さんとのコミュニケーションが大切という事を教えてくれました。ふれあい看護体験に行ってみて、看護師は大変な仕事が多いけど沢山感謝されたり、とてもやりがいのある仕事という事がわかりました。私もいつか立派な看護師になりたいと思います。



☆ミニ看護師さん☆

☆看護の日風景☆

当支部では、「医療安全管理に係わるネットワークの構築」やストレス環境にある看護職のリラックス方法を学ぶためアロマを使用した「看護職のストレスに対するセルフマネジメント」、日々変化する医療現場に対応できるよう「認知症高齢者の看護」「緩和ケア」といった研修会を企画し、会員皆様の学習の場や交流の場の提供しております。また、市民の皆様にも看護の仕事を知って頂くために、「看護の日」のイベントの企画や「いきいき健康祭り」への協賛をしております。

広報・出版委員会 木下彰夫 小山裕敏 中山美幸